

問1 藤原氏が政治を行う上で重要な地位となった「摂政」と「関白」の役割の違いについて、正しく説明しているものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。
2. 摂政は主に儀式や宗教的な行事を取り仕切り、関白は軍事指揮官として全国の武士を統率した。
3. 摂政は京都の朝廷内で貴族を監視し、関白は地方の国司を監督して税の徴収を直接管理した。
4. 摂政は天皇の父が引退した後に就く役職であり、関白は天皇の兄が就く役職であった。

問2 桓武天皇が、それまでの都であった平城京から離れ、長岡京や平安京へと遷都を繰り返した政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 和歌山公立入試 類似）

1. 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため
2. 大陸との交易を活発にするため、瀬戸内海に面した大型の港を建設し都とするため
3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するための軍事拠点として、より北方に位置する土地が必要だったため
4. 平城京において藤原氏の権力が弱まり、新しい有力貴族が自身の拠点に都を移そうとしたため

問3 日本列島の東北地方（現在の岩手県付近）に位置し、2011年に世界文化遺産に登録された歴史的遺産があります。平安時代後期、前九年合戦や後三年合戦といった戦乱で亡くなった人々を供養するために奥州藤原氏が建立した、内部が金箔で装飾された阿弥陀堂（金色堂）を含む寺院群を何といいますか。（2017年 東京都公立入試 類似）

1. 平泉（中尊寺金色堂）
2. 巖島神社
3. 法隆寺
4. 日光の社寺

問4 12世紀後半に、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、兵庫の港（大輪田泊）を修築して積極的に交流を行った中国の王朝はどれですか。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. 唐
2. 宋
3. 元
4. 明

問5 平安時代に藤原道長が全盛期を築いた「摂関政治」において、藤原氏が政治の実権を握り続けることができた仕組みとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 長野県公立入試 類似）

1. 自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み
2. 地方の武士を都に集めて軍事力を強化し、天皇を武力で威圧することで、無理やり政治の全権を委譲させる仕組み
3. 天皇が位を譲って上皇となったあとも、政治の窓口である「院」において実権を握り続け、藤原氏を排除する仕組み
4. 家柄に関係なく、試験によって優秀な人材を官僚として採用し、藤原氏の配下として政府の要職に配置する仕組み

問6 平安時代末期の政治体制の変化について説明した次の文章のうち、白河上皇が「院政」を開始した主な目的や背景として最も適切なものはどれですか。（2024年 岐阜公立入試 類似）

1. 自分の子孫に天皇の位を確実に継がせ、藤原氏などの貴族による介入を防ぐため
2. 武士の不満を解消するために、有力な武士を重用して新しい軍事政権を作るため
3. 遣唐使を廃止し、日本独自の国風文化をさらに発展させるための拠点とするため
4. 律令制度を再建し、班田収授法を徹底して税収を安定させるため

問7 平安時代初期に最澄によって開かれた仏教について、その後の歴史に与えた影響や特徴を説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 愛媛公立入試 類似）

1. 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。
2. 最澄は、都から離れた山奥で修行するのではなく、東大寺などの南都六宗の勢力と協力して政治を支えた。
3. 最澄は、遣唐使として空海と同じ船で唐に渡り、帰国後は空海とともに真言宗を広めることに努めた。
4. 最澄が開いた天台宗は、貴族の間に深く浸透し、後に法然や親鸞が浄土真宗を開く際の直接的な教義となった。

問8 七百九十四年に実施された平安京への遷都と、その時期に進められた政治改革の背景について説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。（2023年 大阪公立入試 類似）

1. 奈良の寺院勢力などの宗教勢力が政治に介入することを防ぎ、律令制に基づいた天皇の権威を回復しようとした。
2. 大化の改新によって蘇我氏の影響力を排除し、唐の律令制度を本格的に導入して中央集権体制を確立しようとした。
3. 全国に国分寺や国分尼寺を建立することで、仏教の力によって国内の政情不安や疫病を鎮めようとした。
4. 壬申の乱という大規模な内乱を経て即位し、新しい都で天皇の絶対的な権力を確立しようとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。	藤原氏は、天皇の成長段階に合わせて役職を使い分けました。天皇がまだ幼く、自身で判断ができない時期には「摂政」として代行し、天皇が成人してからも「関白」として常に天皇のそばで報告を受け、実質的な決定権を握り続けました。これらを合わせて「摂関」と呼びます。
問2	答え 1 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため	奈良時代の平城京では、国家の保護を受けた東大寺などの仏教勢力が政治に深く関与するようになっていました。桓武天皇はこうした宗教勢力の干渉を避け、政治の刷新と天皇主導の中央集権体制を再構築することを目指して、新天地である平安京への遷都を断行しました。
問3	答え 1 平泉（中尊寺金色堂）	奥州藤原氏の初代清衡は、長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏の教えに基づく平和な理想郷（浄土）を築こうと考え、平泉に中尊寺を建立しました。その中でも金色堂は、建物全体に金箔が施された豪華な阿彌陀堂として知られ、当時の東北地方における高い技術力と経済力を示しています。
問4	答え 2 宋	平清盛は、武士の政権を維持するための経済的基盤として、海外貿易に注目しました。当時、中国大陸を支配していたのは宋（北宋・南宋）であり、この貿易は「日宋貿易」と呼ばれます。清盛は瀬戸内海の航路を整備し、大型の船が往来できるようにしました。
問5	答え 1 自分の娘を天皇の後とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み	藤原氏は、娘を天皇の後（きさき）にするという婚姻関係を繰り返すことで、天皇との親戚関係（外戚関係）を築きました。これにより、天皇が幼少のときは「摂政」、成人したあとは「関白」という役職に就き、政治の実権を独占しました。藤原道長は4人の娘を次々と天皇の后にすることで、この体制の全盛期を築きました。選択肢にある武力による支配や、天皇の退位後に実権を握る院政とは異なる、婚姻を軸とした政治体制です。
問6	答え 1 自分の子孫に天皇の位を確実に継がせ、藤原氏などの貴族による介入を防ぐため	白河天皇は、摂関家との血縁関係が薄かったことを背景に、天皇が退位した後の地位である「上皇」として実権を握り続けました。これは、摂政や関白が政治を主導する摂関政治の仕組みを打破し、皇室主導の政治を取り戻すとともに、直系の血筋を安定させる狙いがありました。
問7	答え 1 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。	最澄が比叡山に開いた延暦寺は、平安時代を通じて日本仏教の中心的な教育機関のような役割を果たしました。後に鎌倉時代に新しい仏教を創始した法然、親鸞、道元、日蓮などの僧侶たちは、いずれも若い頃に比叡山で修行を積んでおり、天台宗は「日本仏教の母」とも呼ばれるほど大きな影響力を持っていました。
問8	答え 1 奈良の寺院勢力などの宗教勢力が政治に介入することを防ぎ、律令制に基づいた天皇の権威を回復しようとした。	当時の天皇は、平城京の寺院勢力と政治が結びつきすぎている弊害を重く見ていました。そこで、都を山背国の平安京に移すことでこれまでのしがらみを断ち、政治改革を推進しようとした。同時に、軍団の廃止（健児の導入）や勘解由使（かげゆし）の設置など、地方政治の腐敗を防ぐための具体的な改革も並行して行われました。